

横浜市立岡村小学校 令和元年度 体育・健康プラン

～体育・健康に関する指導の全体計画～

1 中期学校経営方針

(1) 学校教育目標と教育課程全体で育成を目指す資質・能力

学校教育目標	教育課程全体で育成を目指す資質・能力
心も体も元気な岡村っ子	〈心身ともにたくましく生きる力〉

(2) 中期取組目標

中期取組目標
<p>○ 思いやりをもち、輝く自分を求めて、夢中になって共に学び、未来（中学校へ）に羽ばたく子どもを育てます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 横浜市立カリ・マネ要領に示す三つのつながりを重視するとともに、自分づくり教育の10の視点、オリ・パラ教育の4×4の取組における指導の重点等をスパイスとする、子どもにとって魅力ある教育課程を編成します。 体育科重点研究に人権教育の視点を加え、全ての子どもが運動を楽しみ、自己肯定感を高めることができる授業づくりを実践研究します。その考え方を、全ての教科・領域等へ広げていきます。 新教育課程に基づく授業を含む全教育活動が充実するための学校教育環境の工夫・改善を推進します。

(3) 体育・健康に関する指導の重点取組分野・具体的取組

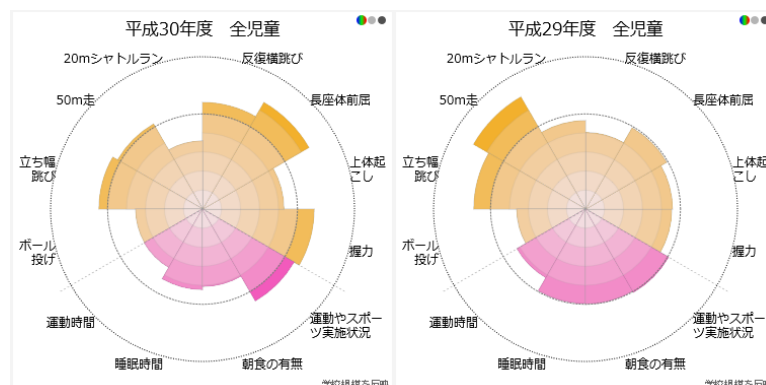
重点取組分野	具体的取組
健やかな体	<p>① めあてをもって友だちと一緒に健康・体力づくりに取り組む体育科授業を精選・開発する。</p> <p>② 学習や生活の習慣改善のために、学校保健委員会の展開を工夫する。</p> <p>③ 運動を楽しむ子を育てために、縄跳びタイムやランニングタイム、早朝クラブを実施する。</p>
担当	体育部・特活部

2 体育・健康に関する実態把握

(1) 体育・健康に関する実態

- ・休み時間には、多くの子どもが運動場で遊んでいる。運動好きな子どもが多い。
- ・運動やスポーツ実施状況は市平均を大きく上回るが、学校以外で体を動かす児童とそうでない児童との二極化が見られる。
- ・朝食の摂取率や一日の睡眠時間は、市平均をわずかに下回っている。

(2) 体力の概要と要因の分析



体力の総合評価としては、市平均をわずかに上回っている。平均を下回っているソフトボール投げは、当然のことながら運動やスポーツ実施状況との相関関係が顕著に見られる。同じく下回っている20mシャトルランでは、さらに朝食の有無や睡眠時間との相関関係も見られる。様々な運動機会を提供したり、健康課題の意識化を推進したりしていきたい。

3 体育・健康に関する具体的取組

教科

《体育科の取組》

学ぶことへの喜びを感じながら、課題や活動に対して粘り強く取り組むことができる子を育てる

- ・子どものみとり（苦手意識や運動特性に関わる課題など）を大切にする授業設計の工夫（グループ編成、場の設定、補助教具の準備、教師の助言や支持法など）
- ・養護教諭を中心とする学校保健委員会の取組を通して、健康課題の意識化を推進。

《他教科での取組》

- ・オリンピック・パラリンピック教育の理念や内容を活用した様々な学習を通して、運動することの価値等を感じ取る工夫。

特別活動・総合的な学習の時間

基礎的な学力や体力の向上、その基盤となる道徳性の向上に意欲的に取り組むことができる子、他人を思いやる心を持ち、共に助け合って生きようとする子どもを育てる

《特別活動》

- ・なかよし班集会等に、オリ・パラで扱っている競技の要素の取入れを工夫
- ・岡村オリンピック（運動会）に、オリ・パラで扱っている競技の要素の取入れを工夫

《総合的な学習の時間》

- ・オリ・パラに関連した課題を自ら見付け、主体的・対話的に粘り強く追究。例えば、車椅子バスケットボールなどパラスポーツの体験、世界の国技（スポーツ）調べと疑似体験など。

課外活動

- ・給食後に歯磨きタイムを年間実施する。
- ・中休み・週に1回、年間を通して業間体育の活動を実施する。短なわタイム、長なわタイム、ランニングタイムなど。
- ・特別クラブ（サッカー、バスケットボール、合唱）、夏季水泳教室、タグラグビーなど、様々な運動の機会を大切にする。

令和元年度 岡村小学校 体力向上1校1実践運動

《名称》 「なわとびタイム」、「ランニングタイム」（休み時間を利用した運動タイム）

《ねらい》 ・運動機会の確保—一人ひとり、あるいは、学級で目標を立てて、その達成に向けて、粘り強く取り組む姿勢を育む。
・体力の向上—基礎的な体力の向上を目指し、運動する習慣形成を図る。
・学級づくり（人間関係づくり）—友だち同士で教え合い、励まし合って取り組む機会とする。

《内容》 ・記録シートに個人記録を記録したり、階段の踊り場に記録板を設置して記録したりする。
・各運動タイムの最終回には、記録会を開催する。

●指 標： ・新体力テストは、6年間の記録を一人ひとりが記録シートに残している。子ども自身が自分の運動能力や体力の向上や課題等を考察する機会をつくっている。
・教職員は、新体力テストや市学力・学習状況調査等の結果を分析し、取組の成果や改善点を洗い出すことに努めている。